

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099300024
法人名	有限会社 祝
事業所名	グループホーム 桜木荘
所在地	福岡県田川郡添田町大字庄2549-1
自己評価作成日	平成26年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成28年12月14日	評価結果確定日	平成29年4月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根差した施設を目指しており地域の小学校や行政区とのつながりを大事にしている。四季を通じての外出や施設の裏の畑で採れた野菜を食事に提供している。米も地元農家より新米をたべている。訪問歯科・理容・マッサージ・地元医院の往診などのサービスも行っている。運営推進会議も2か月に1回開催してご家族・行政区長・役場の職員・地域包括支援センター・社会福祉協議会からの情報や意見交換などを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣に居住する管理者をはじめ、職員全員が地域住民であることから、利用者の方々と地域性を共有することが出来、小学生の体験学習やボランティアの来訪、事業所行事には気軽に近隣の子供たちが参加する等、関係性を活かした日常的な交流機会がある。家族や行政区長、町役場、地域包括支援センター職員の出席を得ている運営推進会議では、災害対策やヒヤリハット、研修等について忌憚のない意見交換が行われており、サービスの向上に努めている。「食」の楽しみへの支援についても、時間をかけ工夫することにより形状を残し、視覚や食感も楽しめるよう取り組んでいる。敷地内には新たに障がい者児童デイサービス事業所も開設し、今後の交流や連携の広がりが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらい				
			3. 利用者の1/3くらい				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・事務所に理念を掲げ毎朝、申し送り後に全員で唱和して理念を把握し理念にもとづいた介護が出来るように努めている。	理念のもとに、職員が意見を出し合い作成されたモットーを掲げている。ミーティングや新人教育において、理念やモットーに基づいた関わりが、チームケアの質を高めることにつながることを伝え、共有や実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	職員も地元から雇い管理者も地元なので地域とのつながりがある。地域の小学校の運動会に参加したり施設の行事・催しなどに地域の方々への参加をして頂き交流を図っている。	管理者・職員が全員地域住民であることから、日常の中で地域とのつながりがあり、PTAを通じて小学生の体験学習が実施されたり、職員の知人がカラオケボランティアとして来訪したり、餅つきの際には近隣の子供たちが気軽に訪れる等、交流を重ねている。敷地内に放課後デイサービスを開設され、新たな交流も始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に対しては認知症の理解や支援の方法などはなかなか進んではない。地元の小学校の児童や先生方との交流で少しは理解が進んではいる。また地域の方々からの施設の受け入れの相談・要望にも快く応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月に1回開催し役場の職員・行政区長・ご家族・地域包括の職員が参加され施設での状況報告、事故報告、行事報告など行い意見や要望など伺いサービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回開催される運営推進会議には、家族、行政区長、町役場(保健福祉環境課)、地域包括支援センター職員の出席を得ている。地域より、災害対策の課題や管理者不在時の対応等について質問がなされたり、地域包括支援センターより、研修実施や水分補給等について情報提供も行われており、議事録より忌憚のない、有意義な意見交換が行われている事がうかがえる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場の福祉環境課には、たびたび足を運び連携をとり協力関係を築いている。また広域連合や地域包括支援センターの職員にも施設の相談や指導を仰いでいる。	運営推進会議には、町役場担当者及び地域包括支援センター職員の出席を得ており、事業所の実状を伝え、開かれた事業運営に努めている。また行政窓口を訪ね、不明な点を問い合わせたり、空室状況について情報共有を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設では身体拘束は一切行っていない。玄関も施錠はせずオープンにしてある。	年間研修計画の中に位置付け、職員の意識を高めている。玄関の施錠は行われておらず、距離感を意識した見守りや、日々の服装等をチェックしリスク管理に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念にもとづいた介護をしてあり優しく丁寧に入居者に接している。職員会議などで虐待防止も図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用している入居者のご家族が一人おられます。今後も施設内学習会・研修会などに取り組んでいきます。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、支援の過程を通じて学ぶ場面がある。年間研修計画の中に位置付け、学ぶ機会を確保していく予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い締結時にも再確認をしている。解約時や改定等の時は入居者様やご家族の不安や疑問点を尋ね十分な説明を行い理解・納得をしていただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に入居者様やご家族に意見や要望を聞くようにしている。それら吸い上げた意見や要望を施設に反映させるように努めている。	毎月、各担当者による生活状況報告書が作成され、家族との情報共有に努めるとともに、年2回(5月・11月)、運営推進会議の前に家族会を開催している。日ごろから家族の来訪する機会も多く、直接意見や要望を表出してもらえよう関係づくりに努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の業務の中で気付いた事はその日に管理者に伝え会議での意見や要望・提案を施設の行事に取り入れている。	外部評価の実施にあたり、職員の意見を集約し、自己評価を作成している。また、毎月第三水曜日の勤務後に会議を開催し、職員の意見や提案をもとに話し合い、反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	そのように努めてはいるが職員の希望どうりには出来てはいない。給料水準が低いといわれている。休憩時間は交代で各々がとっている。職場環境・条件の整備にも努めてはいる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢などの理由で採用から排除する事はない。本人のやる気と介護に関心のある人を採用するようにしている。また、個々の職員がいきいきと、やりがいを持って勤務出来るようにしている。	職員の採用にあたり、年齢や性別等を理由とする排除は行われていない。現在、20代から60代の職員が勤務し、調理や特徴ある創作活動等、特技や個性を発揮している。内部研修は持ち回りで担当し、スキルアップや向上心を持って働けるよう努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員会議や申し送りなどで入居者様の人権について話し合っている。	年間研修計画の中に人権研修を位置付けるとともに、理念の共有等を通じて、職員への人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	チームケアを大切に一人ひとりのケアの実際、力量を把握し法人内外の研修を受けるようにしている。社内での学習会も設け職員の質の向上に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	田川市郡の介護施設の同業者が集まり新たにネットワークづくりがスタートしている、その会合に管理者や職員が参加して交流をしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	電話での問い合わせ時、見学時の時から本人が困っている事、不安な事、要望などを聞くようにしている。本人が安心して生活が出来るように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や職員はご家族対応時には施設に対して不安な事や要望を常に聞くように努めそれを管理者・職員間で連携している。本人が安心して生活ができるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族の要望を聞き満足できるように職員間でも連携を保ちながら今一番して欲しいサービスと他のサービス利用も含めて対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来る事はしていただき時には料理の下準備などもしていただいている。洗濯物を畳むのは日課になっている。家族の一員として職員のわからない事も教えていただいている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援していく上で常にご家族とは連携をとっている。わからない事は相談して共に悩みながら利用者様を支援していけるように協力関係を築いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会時に共にお茶やおやつを食べて楽しく過ごしていただいている。関係を大事にして支援に努めている。	全職員が地域住民であることから、地域性を共有出来る。また、神幸祭の山笠が敷地内を巡行したり、地域に馴染みの行事である岩石城まつりの武者行列の見物に出かけている。月命日の支援等、個別の対応も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように常に見守り・声掛けを行い談話室での利用者様同士の会話にも耳を傾け行事やレクリエーションに参加していただけるように努力している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了してもこれまでの関係性を大切にしている。必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族様に要望を聞き希望、意向に沿った支援に努めている。一人ひとりの思いや暮らし方を大切に困難な入居者様は本人本位で対応している。	日常の中で、言葉や表情、行動等から気づきを得ながら、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族の協力も得ながら、本人本位の検討に努めている。外出支援や馴染みの関係継続、個別の居室づくりへの配慮等、日々の実践がうかがえる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から契約時にいただいた入居者様の生活歴や暮らし方、生活環境、これまで受けられたサービスなどを職員全員でこれらの情報の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通して利用者様の過ごし方・心身状態など職員も都度申し送りながら現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良く暮らすための課題とケアは全職員で職員会議、介助時、ご家族との話し合いでも意見交換、アイデアを出し合って現状に応じた介護計画を作成するようにしている。	本人の役割(メニューの考案・味見等)を具体的に位置付け、個別性ある介護計画を作成している。職員会議の中で現状の確認や振り返りを行い、現状に即した介護計画となるよう努めている。	アセスメントの充実を図ることで、更に本人や家族の思いが反映され、根拠のある実践や評価に結び付けていくことが期待されます。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・個別記録・申し送り記録・バイタル記録など全職員で共有し気付いた事、工夫、見直しも行いながら実践に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が来園された時などに可能な限り管理者や職員は意見や要望を聞きその時のニーズに応えるようにしている。柔軟な支援を心がけている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政区、役場、小学校などと協力関係を築きながら入居様が安心して笑顔で楽しい暮らしが出来るように地域資源を活用して支援に努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望を大切に納得が得られた訪問医師、看護に来ていただき近況報告後、指示に従い時には必要な専門医療などで対応している。	協力医療機関により週に1回、訪問診療が実施され、他科受診についても職員が対応する機会が多い。家族との情報共有に努めながら、適切な医療が受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師や往診の主治医に日常の中での気付いた事や変化を伝え職員間でも情報共有して適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居様が入院した時など安心して治療できるようにご家族様や病院関係者などに連携を図りながら支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方については、本人やご家族様と話し合いをして施設として出来る事を説明して方針を共有して同意を得てその後の在り方を支援している。	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時に事業所としての方針を説明し意向を確認している。状況の変化に伴い、都度意向を確認し、方針の共有に努めている。看取りを行った経験もあり、外部研修(看取り・緩和ケア等)に参加し、体制の整備に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変、事故発生時は提示している緊急連絡先に連絡をして指示を仰ぎ速やかに対応できるように心がけ訪問看護に緊急処置の仕方などを教えていただいている。また年2回、消防署に来ていただき訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は整っていないが、火災や地震・水害などに備え施設自衛の役割分担を決めて事務所に掲示している。また年2回の消防署の指導による避難訓練も実施している。	火災や自然災害を想定したマニュアルを整備し、消防署の指導のもと、年2回昼夜を想定した避難訓練を計画している。管理者がすぐ近くに居住しており、また、全職員が地域住民であることから、より近い職員から駆けつける体制にある。	隣接する関連事業所との合同訓練実施や、運営推進会議を活かした地域との連携体制作り等が期待されます。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のこだわりや性格を把握しプライバシーには配慮して言葉使いにも気をつけて対応している。	年間研修計画の中に、プライバシーの保護と人権や認知症ケアを位置付け、職員の意識を高めている。豊かな地域性の中で、コミュニケーションを図りやすい方言を使用し、折に触れ振り返る機会を持っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で常に利用者様を観察し傾聴も行い納得されるように対応している。表情、動作で何を思われているのかを気付くように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	モットーに掲げている入居者様第一で本人のペースに合わせた支援をしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人やご家族様の要望に合わせて支援をしている。また月1回、訪問理容にも来ていただき希望者には散髪、カットをしていただき、その人らしい整容が出来るように支援をしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に食事後に味の感想を聞いたり、何を食べたいか？聞いたりして一人ひとりの好みに対応している。調理の準備や配膳もしていただいている。	介護計画の中に、メニューの考案や味見等を役割として位置付けている方もおり、嗜好を反映しながら、こだわりの食事を提供している。調理の手間を惜しまず、形状を残し食感を楽しめるよう工夫されている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々人の毎日の記録表に食事摂取量、水分摂取量を記入して少ない時には調理の工夫をしたりきざみ食や甘味、ゼリーにして水分を摂るなど美味しく摂取して頂けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員起床時、毎食後の口腔ケアを行っている。状態に応じて訪問歯科にも連絡、指示を仰いでいる。一人ひとりに合わせて介助を行い義歯の洗浄、消毒の管理をしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々利用者様全員の排泄パターンを把握して全員の方がトイレでの排泄をされている。	排泄チェック表を用い、個別の状況の把握に努めている。日中はトイレでの排泄を基本としている。水分量の確認や食物繊維の摂取、腹部マッサージ等を行い、便秘予防に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になる原因を常に考え繊維質な食べ物の摂取や水分量の確認、散歩など運動の声掛けをし排便が困難な時は腹部マッサージなどを行い3日以降は担当医とも相談し便秘薬にて対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は本人の希望、その日の体調に合わせて支援をしている。入浴を拒否された時も無理強いせず本人の希望に沿って支援をしている。日々をずらすなどして次回に入浴していただけるように心がけている。	日曜日以外、毎日入浴準備を行い、週に3回は入浴できるよう、希望や体調、状況等に応じて、柔軟な対応に努めている。無理強いとならないよう、声掛けや対応の工夫に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分らしい生活が送れるように個々の生活習慣や状況に応じて安心して気持ちよく眠れるように冷暖房、空調調節、衣類、寝具にも気を配っている。昼寝もされている利用者様もいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法についても理解しバイタルチェック表にも必ず服薬確認を記入している。また変化のある時は担当医師に連絡、相談し観察を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な事を普段の会話の中で見つけ出し楽しんで気分転換できるように、また、他の入居者様とも共有できる作業への参加の声掛けも行い生活に張り合いが持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に合わせて散歩をしたり、畑に行ったりしている。また外出行事を企画して四季を通じて出かけている。天気の良い日など外にて昼ご飯、おやつなども食べるように工夫している。	広い敷地内での散歩や日光浴、野菜の栽培等の機会がある。季節に応じた外出企画(英彦山での紅葉・棚田での彼岸花等)や大衆演劇鑑賞、敬老会参加等の支援を行っている。アセスメントの充実を図り、個別のニーズや根拠のある個別支援についても検討が期待される。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には本人はお金を持たせないように家族にも伝えているが施設側にて数人の入居者様の預り金をご家族様より預かって管理している。入居者様の希望に沿うようには支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話をいつでも使えるように支援している。手紙のやり取りも自由に支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は入居者様と職員での共同作業にて作った貼り絵、各、行事の写真などで飾っています。四季を通じて貼り絵も作り変えています。玄関には水槽にメダカを飼っています。	職員の個性や特技が発揮され、利用者との共同作品が来訪者を出迎え、日々の取り組みが伝わる完成度である。清潔感あるリビングからは周囲の自然風景を眺められ、行事の写真等を掲示している。掃出しの窓は開放感があり、時には庭でバーベキューを楽しんでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内では個々人がそれぞれ編み物をされたりテレビを鑑賞されたり貼り絵をしたり居室で休まれたり思いおもいの時間を過ごせるように支援している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人やご家族様の意向に沿って今まで使用されていた家具や仏壇も置いている。壁にもご家族の写真や飾りたり自分の家だと思っただけのように支援している。	自宅から、筆筒や仏壇、椅子、テレビ、裁縫道具等が持ち込まれ、家族の写真や旅行先の土産品等が飾られ、個別性や生活感が伝わる居室が多い。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の出来る事、わかる事を活かして居室内も掃除をしていただいている。建物内部には邪魔になるような物は置かないように心がけて支援している。		